

まだらの風



令和7年10月22日
学校便り No.12
校長 原口 真

『 育てよう自分らしさ、認めよう仲間の良さ、つなげよう馬渡の力 』
～自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に～

小中ダンス発表会を10月8日に行い、取り組んできた練習の成果をお披露目しました。「まだらだから」の曲に合わせてチームごとに動きを工夫しました。来年は子どもたち全員でのダンスをお見せできればと思います。

令和7年度文化祭開催！こどもたちの活躍に、保護者・地域の方の拍手と歓声響く

10月18日(土)「友情共奏～みんなが主役
輝け my personality～」のテーマの下、令和
7年度文化祭が開催されました。



オープニング

ではフライパンやペットボトル、菜ばしなどを持ったゆかいな楽団の指揮・演奏のもと、参加者全員の足踏み・拍手で会場が一体となってスタートしました。中学生6人がピアノ、バス、ドラム、シンバル、ベース、電子ピアノで「まだらだから」合奏を披露する

と会場は大きな手拍子で包まれました。小学5・6年生は長崎修学旅行で得た学びを基に長崎の教会、原子爆弾、永井隆博士、水の意味について調べて平和への思いを訴えました。中学生による探究活動発表では、SDGsの目標達成(⑪住み続けられる街づくり、⑭海の豊かさを守る、⑮陸の豊かさを守る)に向けて課題を明らかにし、島の果実の活用、プラスチックごみのアップサイクル、無人販売所「海の駅」設置など、解決するための具体的アクションを提案しました。



「プラズマ Life さが」では、海洋プラスチックごみの問題について漂着物の実態と考察、ペットボトルキャップを活用したキーホルダー・コースターづくりについてまとめ、環境を守るために自分事として意識し行動することの大切さを、「小さな島から始まる小さな一歩が、世界を変える力になる」と訴えました。

展示コーナーでは、会場内には児童生徒の各教科の作品・制作物・成果物、島民の方の作品が所せましと展示され、中3プログラミングのゲーム体験やゲンコウを使ったマーマレード、グミの試食も好評で、会場を訪れたみなさんが熱心に参加・参観されていました。



ステージ発表の最後を飾った和太鼓演奏は小学生8名の最大の見せ場となり、練習を重ねてきたバチさばきを存分に発揮した大迫力の響きで観衆をひき込み、中学生も一緒になった全校児童生徒14名での馬渡ソーランで会場の盛り上がりは最高潮となり、余韻もさめやらぬままに閉会となりました。

この文化祭に向けた取り組みの中で、「自分らしさ」が育ち一緒に練習・準備した仲間ひとりひとりの良さを互いに実感してくれていればと思います。ご参観のみなさまには足元のお悪い中、40名を越える方々に学校に足を運んでいただきありがとうございました。子どもたちにとって大変はげみになりました。今後とも本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますようお願いいたします。

なお、生徒会からお願いいたしました「赤い羽根共同募金」の集計は6,377円に上りました。ご協力ありがとうございました。

